

Colette English

Professor Saito-Abbot

JAPN 320s

December 4, 2014

Final Essay

私は、このサービス・ラーニングのクラスを取る前に悪いうわさを聞いていたの
で、このクラスは面倒くさいクラスになると思いました。しかし、少しずつこの考え方
は変わっていきました。色々な経験から私の意見は変わりました。サービス・ラーニン
グのクラスが始まった時、最初から様々な内容を学び始めたので、面倒くさく感しまし
たが、毎週の予定が ilearn に出たとき、このクラスが興味深く感じました。

サービス・ラーニングのクラスの半分は批判的思考を身につけるものでした。
このクラスを取る前、私は子供たちに日本の文化を教えるだけだと思いました。
なので、批判的思考のことは知りませんでした。私にとって、批判的思考を身につける
ことは難しく感じました。なぜなら、私は論文を読むとき、基本的に私と関係がないの
で意見がありません。しかし、このクラスではそうではありません。論文では私が興味
のあった外国語教育に焦点を当てていたので、内容は興味深かったです。しかし、時々論文
の内容は難しすぎるので、筆者の内容を理解できませんでした。“Helping, Fixing,
Serving?” の論文では、助ける人、正す人、奉仕する人の違いを説明しました。この論
文では“奉仕”に焦点を置いて書かれていましたが読むにつれて困惑したのが私の唯一
の問題でした。私は正す人と助ける人の説明を理解しましたが、このクラスの主要なポ
イントはサービスなので奉仕する人の説明が一番重要だと思いました。基本的に論文を

理解してから、クラスでその論文について話し合いました。子供にとって外国語を学ぶことはとても大切です。子供たちは外国語を学ぶことで新しい言語だけでなく、新しい文化も学び、他の科目での知識も得ています。この論文を読む前は外国語の学びが他の科目での知識を得ることにつながるということを聞いたことがなかったので、それはすごく興味深かったです。私が高校で日本語を勉強していた時、英語も学びました。先生は日本語の文法を教えていた時。私は英語の文法と比べて、英語の文法の理解を深めました。より幼いときに外国語を学ぶことで英語の文法の理解を深めるだけでなく、他の科目の理解も深めることができますと思います。World Language Education: The Benefits of School of Second Language Study, NEA Research December 2007 の論文の中には数学の理解も増えるようになったり、試験の成績がよくなったということが書かれてありました。その論文も生徒の達成しようとする意識を高めること、文化の気づきと適格性を推進し、また基本的な発達能力を得ると書かれていました。他の言語や文化を学ぶことは面白いと思いました。私は、子供の時期に外国語を勉強することで文化も学ぶことができ、偏見を持つことがないことを学びました。このクラスを取る前は、子供たちにとって外国語を学ぶことが大切だということを知りませんでした。このことがサービス・ラーニングのクラスで学んだ一番重要なことだと思います。

サービスラーニングのクラスの半分は小学校に行って学生に日本の文化と言語を教えるものでした。私のグループにはまゆ、みつえ、りさこ、もえ、リチャードとクリスがあります。私たちのサイトはオードテラス小学校で一年生から五年生までの学生をも

ちました。私たちは学生に木曜日の 30 分と金曜日の 1 時間、日本の文化と言語を教えました。私たちのグループは CSUMB の学生が多すぎたので、グループを分裂しました。リチャードのグループは 1 年生と 2 年生の学生に日本の文化と言語を教えました。私のグループは 3 年生から 5 年生の学生でした。

リチャードと私のグループの学生のレベルは違うのでレッスンプランは少し異なります。例えば、カタカナの授業をした時、私の生徒たちはワークシートを使って、カタカナの発音と書き方を勉強しました。リチャードの生徒たちはカルキを使って外でセメントの上でカタカナの書き方を勉強しました。私の学生は 3 年生から 5 年生までなので、ワークシートを使うことができました。しかし、リチャードの学生は集中力が短いので、ワークシートを使うことは出来ないのでカルキを使いました。

私はサイトに行く前は、小学生に日本の文化や言語を教えるということが少し怖かったです。私の一番の課題は学生の名前を覚えることでしたが、一か月後には基本的に学生の名前を覚えることができるようになりました。他の問題は一時間の授業をする時、どのように学生の注意をひくかということでした。学生の注意をひくためにはしっかりとしたレッスンプランが必要だと思いました。しっかりとしたレッスンプランにするため、私たちは一時間の授業の中でいろいろな活動するようになりました。例えばワークシートを使ったり、ゲームをしたり、日本からの留学生に発音をしてもらい、発音を勉強したりしました。

学生を教え始めて以来、私は教えることに対して怖くなくなりました。子供が大好きになったわけではなく、私にとって教えることに対して慣れたんだと思います。この経験から私は自信がつき、日本の子供たちに英語を教えることができると思います。

私はサービス・ラーニングのクラスでいろいろなことを学びました。サービス・ラーニングのクラスのアウトカムを読み返すと、本当にたくさんのもを学んだと感じます。

アウトカム1は“自己と社会意識”です。毎週オードテラス小学校に行くのは社会意識の表れだと思います。オードテラス小学校の子供たちはマイノリティーと考えられるヒスパニックだったので、私はその子供たちの文化のアイデンティティを学ぶようになりました。毎週、子供たちと接することによって日本語のクラスを持つ前に抱いていたイメージは変わりました。私のお父さんは警察官でした。そのため正直に言うと私のお父さんはいくらか人種差別的な見解を持っています。なので私は、子供の頃から培われた人種に対する偏見をゆっくり変えていかなければなりませんでした。私は人種差別主義者ではないですが、私の先入観は良くなかったです。しかし、サービス・ラーニングのクラスによって徐々に私の先入観は変わるようになりました。

アウトカム2は“サービスと社会的な責任”です。ここでは私が子供に与える影響を学びました。例えばサイトでの日本語のクラスで動物の名前を教えた時、私は日本語の名前を紹介する前に子供たちに『スペイン語で動物の名前はなんですか。』と聞きました。次の日に動物の漢字の書き方を教えた時に、「スペイン語で動物の名前を書いてください」と聞きました。スペイン語を使うことによって、子供たちは日本語とスペイン語と英語を比較対照するようになりました。そしてサービスラーニングのクラスでいろいろな“サービス”の論文を読むことを通して、他の人たちの責任、私の責任に気付きました。

アウトカム3は“コミュニティと社会的な正義”です。このアウトカム3とアウトカム2の“サービスと社会的な責任”大体同じだと思います。私がサイトでの日本語

のクラスでした動物のレッスンもここに適応すると思います。私は日本の文化を教えながら、スペイン語の文化とも比べました。論文からその重要性を学びました。面白い論文でした。そして、新しい文化を幼い時に学ぶことによって、子供たちは他の文化を理解することができ、その文化に対しての偏見を持つことはありません。

アウトカム4は“多文化コミュニティの構築と市民参加”です。たくさんの論文は多文化主義について話していました。その論文では学校での多文化の教育が足りないと指摘していました。もし子供たちが幼いころから外国語を学ぶと多文化の中で育つことができると思います。そして全体のコミュニティーも異なる文化の知識を得ることができると思います。私はCPYの人たちと話し合ったとき、CPYの人たちの視点からの学校内でのマイノリティーの学生の問題について学ぶことができました。今では私は子供たちの問題を理解できると思います。論文の中にもそれらの問題について書かれていましたが、読むのと実際見るのとでは大きく違います。実際見るほうがインパクトが強いです。

クラスでしたすべてのことが好きというわけではありませんが、サービス・ラーニングのクラスの内容は必要だと思います。日本で英語の先生になることを目指している私にとってこのクラスで学んだことはとても勉強になりました。サービスラーニングのクラスでの経験によって、将来日本で子供たちを教えることは恥ずかしくなく、怖くなく、楽しいものになると思います。そして論文を読むことは時々大変でしたが、内容はとても大切でした。たくさんの論文は教師を目指す私にとって興味深く、私の見解を広げるものでした。そして私が思っていたよりも深く考えることが必要でした。私の夢を叶えるためにも、これからも言語や多文化について勉強し続け、生徒にそれらの大切さを伝えたいです。